

プレスリリース

迅速なエネルギー転換で ゼロ到達レースに勝利

World Energy Transitions Outlook はカーボンニュートラルに向けた世界的な戦略の概要をまとめ、2050年までに気候安全を図る1.5°Cへの道筋を導きます。

2021年3月16日、アラブ首長国連邦アブダビ国際再生可能エネルギー機関（IRENA）の「World Energy Transitions Outlook（世界エネルギー転換展望）」[要覧](#)では、今日すでにネット・ゼロ・エネルギー・システムに関する実績ある技術が多々存在していることを確認しています。今後は、再生可能電力、グリーン水素、現代的なバイオエネルギーが世界のエネルギーの主流を占めるでしょう。

本日の「ベルリン・エネルギー転換対話」で紹介された通り、IRENAのOutlookでは、気温上昇を1.5°Cに抑え、不可逆的な地球温暖化を食い止めるための困難な道筋に対するエネルギー転換の解決策を提案しています。2050年の脱炭素を目指す全ての解決策の90%は再生可能エネルギーを含み、低コスト電力の直接供給や効率性、エンドユースにおける再生可能電力による電化、グリーン水素を用います。また、バイオエネルギーと組み合わせた炭素回収・除去技術は、ネット・ゼロ・エネルギー・システムに向けたCO₂削減の「最後の1マイル」になるでしょう。

目標達成期限の2030年が間近に迫る中、国連エネルギー・ハイレベル対話やグラスゴー気候変動枠組条約締約国会議（COP26）が予定されている今年は、地球の気候約束への迅速かつ大胆な行動が極めて重要であり、このOutlookの公表もこの重要な時期に重なりました。

フランチェスコ・ラ・カメラ IRENA 事務局長は、次のように述べています。「1.5°Cパリ協定目標を達成する絶好の機会が足早に近づいています。最近の傾向を見ると、現状と目標のギャップは狭まるどころか、逆に広がっていることが分かります。私たちは間違った方向に進んでいるのです。『World Energy Transitions Outlook』は、1.5°C目標に即して進むべき困難な道筋のオプションについて考察しています。有意義な方向転換を果たすためには、エネルギー転換を劇的に加速しなければなりません。私たちの努力を測る最も重要な要素は時間なのです」

ラ・カメラ事務局長は次のように続けます。「この道筋が非常に困難な一方で、目標を達成可能にする幾つかの要素もあります。世界のCO₂排出量の半分以上を占めている主要経済国はカーボンニュートラルに移行しつつあり、また国際資本も動いています。金融市場や投資家は、持続可能な資産へと資本をシフトしています。新型コロナウイルスの感染拡大で経済諸国と化石燃料を結ぶコストが浮き彫りとなり、一方で再生可能エネルギーの強靭性が証明されました。政府が救済や回復に巨額を投じているように、エネルギー転換にも投資による支援が必要です。今こそ行動を起こすときであり、各国は、21世紀にふさわしい気候の安全と繁栄した適切なエネルギーシステムのための政策によって道を拓くことができます」

IRENA の「1.5°C への道筋」では、2050 年には再生可能電力が主流となり、世界の電力需要は 3 倍に増加、また化石燃料使用量は 75%以上減少すると予想しています。最も速く低減するのは石油と石炭です。天然ガスのピークは 2025 年前後で、2050 年には最も多く残る化石燃料になると思われます。

このシフトを受けて、金融市場では、化石燃料から再生可能エネルギーなどの持続可能な資産への資本移動します。化石燃料の格下げは続き、S&P インデックスにおける化石燃料を多用するエネルギーセクターのシェアは、10 年前の 13%から 3%以下に落ち込んでいます。それとは対照的に、投資家は再生可能エネルギー関連銘柄に莫大な資金をつぎ込んでおり、2020 年の S&P クリーンエネルギー指数は 138%もの上昇を見せています。

いずれにしても、IRENA の Outlook が示しているように、重要な投資は方向転換せざるを得なくなるでしょう。主要経済国は経済刺激策を発表し、農業や工業、廃棄物、エネルギー、輸送など、炭素関連セクターに約 4.6 兆ドルを直接投入することになっています。一方、グリーンセクターに投入される金額は 1.8 兆ドルを下回ります。

翻ってエネルギー転換への投資は、今後 2050 年までに総計 131 兆ドルと、現在の投資計画の 30%超の増加が求められます。平均年間投資額で見ると 4.4 兆ドルになります。社会経済的な利益は大きく、エネルギー転換への投資によって、支出額 100 万ドルあたりで化石燃料セクターの 3 倍近くの雇用を創出すると予想されます。公正で適切なエネルギー転換の実現に向け、IRENA の Outlook では総合的で首尾一貫した政策枠組みを要求しています。

IRENA の「1.5°C への道筋」は、2050 年には再生可能電力の発電容量が 10 倍以上に増大し、電気がエネルギーキャリアの主流になると予測しています。電化においては、輸送セクターで 30 倍増と最大の成長が見込まれます。輸送分野における炭素排出量削減の約 70%は、直接的・間接的な電化によって実現されるでしょう。

グリーン水素は電気の主要な需要の一つとして浮上し、2050 年には総消費量の 30%を占めると推測されます。バイオエネルギーと炭素除去技術を組み合わせた BECCS は、1.5°C 達成に向けたカーボンバジェット（炭素予算）が限られていることから、「ネガティブ・エミッション」を目指す産業界にはますます重要な存在となるでしょう。

[World Energy Transitions Outlook の要覧](#) をぜひご覧ください。引き続き、市場や金融の識見を交え、エネルギー転換の社会経済的フットプリントについてまとめた詳細報告を公表します。

###

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）について

IRENA は持続可能なエネルギーの将来に向けて移行しようとする国を支援する世界的なエネルギー変革のための政府間組織で、国際協力の主要なプラットフォーム、中核拠点、再生可能エネルギーに関する政策、技術、リソースおよび経済に関する知識の集積所として機能しています。IRENA は現在加盟数 163 カ国(162 カ国と欧州連合) とその他加盟過程および積極的関与を行う 21 カ国をかかえ、あらゆる形の再生可能エネルギーの広い適用と持続可能な使用を推進し、持続可能な開発、エネルギーアクセス、エネルギーセキュリティ、低炭素経済の成長と繁栄を追求しています。

お問い合わせ先：

IRENA: Nicole Bockstaller, Communication Officer, +971 56 681 69 46, nbockstaller@irena.org
IRENA を SNS でフォロー <https://twitter.com/irena>、www.facebook.com/irena.org